

ゆるスポーツ開発
アイデア出し合っ
まちおこし推進協

氷見 氷見市ハンドボール推進協議会の「ゆるスポーツ」開発分科会が1日、市B&G海洋センター体育館で開かれ、約20人の参加者が気軽に楽しめる新たな競技の可能性を探った。

同分科会は氷見で盛んなハンドボールを母体に、幅広い年齢層が参加できるニュースポーツ(ゆるスポーツ)の開発を目指している。



ゆるスポーツを体験する分科会メンバー

この日は、世界ゆるスポーツ協会の萩原拓也事務局長が、誰でも参加できる▽勝つてうれしく、負けても楽しいーといった、ゆるスポーツに求められる条件を説明。ベビーバスケットと呼ばれる競技も体験した。新たに分科会のメンバーになった氷見高校生2人も参加した

分科会は2日も開き、新競技のアイデアを出し合った。協議会では来年3月の「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」での発表を目指している。